

フォトコンテスト審査会

と き 令和5年10月5日(木)

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告: 常任理事 長谷川奈津江]

対外広報事業として、「いのち、きずな、やさしさ」をテーマにしたフォトコンテストを今年度も開催した。応募者を「山口県内在住の方のみ」に限定させていただいているが、41名の方から、計106作品のご応募をいただいた。

今回も審査委員長として、萩市在住の写真家下瀬信雄氏を迎え、審査員には加藤智栄会長、中村洋副会長、藤原崇・岡紳爾両理事、そして広報委員の岸本千種先生、吉川功一先生、藤村智之先生をお願いした。

審査会当日、机の上に並べられたすべての作品を見ると、愛情の込められた、心を癒してくれる写真ばかりであった。この中から、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞及び佳作の選考を開始した。

審査方法は例年同様、まず、各審査員に付箋9枚を配付し、自分が気に入った作品に貼るというものである。各審査員はそれぞれの感性を活かして、真剣な面持ちで次々に付箋を貼り付けていった。年々、力作揃いで選ぶのが困難になってきており、皆さん、悩みに悩んで選ばれている姿が印象的だった。付箋が貼られた作品を集め、下瀬審査委員長の進行のもと、審査が進められた。



被写体の表情、構図、光の使い方だけでなく、それらを通して伝わる撮影者の「伝えたいメッセージ」がわかる、あるいは「発見」や「感動」がはっきりに出ている作品が審査員の心を捉えたようである。審査開始から約50分後、最優秀賞、優秀賞、下瀬信雄賞、こども賞、新人賞の各1点及び佳作5点の各受賞作品が決定した。

なお、受賞作品については、12月3日に開催した県民公開講座(次頁)にて表彰式を行い、下瀬審査委員長に講評を行っていただき、応募いただいたすべての作品展示も同時に開催した。

ご応募いただいた皆さま、審査員の皆さまに深く感謝いたします。

